

主な民間企業の研究施設等における 放射性廃棄物の保管状況 および 処理・処分に関する課題と要望

令和5年 6月30日
株式会社 日立製作所

各社における放射性廃棄物の保管状況（1）

A社（2023/3/31時点）		
保管対象物	施設解体で発生した雑固体廃棄物	試験等で発生した固体、液体廃棄物
保管数量	約1,100本（200Lドラム缶換算） 施設の解体の進捗に伴い今後増加する計画である	約1,850本（200Lドラム缶換算）
保管状況	ドラム缶(平積み)及び角型容器(2段積み)で保管。	ドラム缶をパレットで3段積み。ドラム缶とパレットをロープ等で固縛。

B社（2023/3/31時点）		
保管対象物	主にウランを用いた原子力関係の研究開発、試験研究施設の解体撤去、及び、所内全域調査に基づいて回収した放射性廃棄物。	主にウランを用いた原子力関係の研究開発、及び、試験研究施設の解体撤去で発生した放射性廃棄物
保管数量	約31,000本(200Lドラム缶換算) クリアランス対象物（数量不確定）を含む。	約4,200本（200Lドラム缶換算） 施設の解体の進捗に伴い今後増加する計画である。
保管状況	地下保管庫内で、主に鋼製角型容器にて保管。（3段積み）	鋼製角型容器と200Lドラム缶を併用して保管。ドラム缶は専用パレットを用いて4段積みしロープ等で固縛。

各社における放射性廃棄物の保管状況（2）

C社（2023/3/31時点）	
保管対象物	ウラン用いた研究開発、燃料加工、設備撤去・管理区域解除工事等で発生したウラン廃棄物
保管数量	約10,000本（200Lドラム缶換算） 施設の解体の進捗に伴い今後増加する計画である
保管状況	ドラム缶をパレットで最大4段積み。通路側のドラム缶とパレットをロープ等で固縛。

D社（2023/3/31時点）			
保管対象物	主にホットセル内で発生した廃棄物	ホットセル以外で発生した廃棄物	研究施設解体時の廃棄物
保管数量	約30本 (200Lドラム缶換算)	約2,700本 (200Lドラム缶換算)	約9,200本 (200Lドラム缶換算) 施設の解体等に伴い今後増加する計画である
保管状況	遮蔽容器 (廃棄物保管庫内平積み) 20ℓステンレス缶 (貯蔵プール保管ラック内 10段積み)	ドラム缶をパレットで4段積み。ドラム缶とパレットを金具等で固縛。	角型容器を3段積み。角型容器をブロック毎にベルトで固縛。

■課題

- 廃棄物が大量に発生する廃止措置の完了には廃棄物の全量搬出が必要となりますが、搬出先が決まっていないため、廃止措置を進めることが難しい状況となっています。
- 廃止措置が完了するまでの間、計量管理上、保管廃棄されている廃棄物や有害物を含め、対象施設を安全に維持、管理していくための人材確保や費用負担の継続が、民間企業として大きな負担となっています。

■要望

1. 廃棄物発生～各社個別保管時

- ① 今後発生する物を含め、全ての廃棄物に関する処分までの道筋を明らかにしていただきたいと考えます。
- ② 既存の保管庫容量が逼迫してきており、保管庫増設計画を策定するうえでも、廃棄物の払出しが可能となる処分スケジュールの早期透明化をお願いいたします。

2. 各社個別保管～集荷～集中保管・処理

- ① 民間研究施設等から発生する廃棄物を対象とした埋設事業の開始時期が相当期間遅れる場合、例えば、一括して保管管理する体制の構築が望ましいと考えます。
- ② 鉛などの有害物質を含む廃棄物、あるいは処分に向けた安定化処理が必要な廃棄物も存在するため、これらの廃棄物も将来的に確実に処理・処分できるような方策を構築していただきたいと考えます。

3. 埋設時

- ① 計量管理上の扱いを取り決める検討の推進をお願いいたします。
- ② 可燃・不燃の分別が困難な廃棄物が多く、両者を包含した埋設基準の整備を期待します。

4. クリアランス制度

- ① 現状、クリアランス払い出し後にも追跡が必要であるため、クリアランスの対応が合理性を欠いた状態となっています。認可を受けた後、フリーリリースができるような制度の検討を期待します。